

ハンズオン支援による「医療機関における電波の安全性に関する説明会」を実施

総務省北陸総合通信局では、医療機関で使用される医療用無線機器のうち、特にトラブル事例が多いとされている医用テレメータ、無線LAN及び携帯電話による事例紹介とその対策、更には電波を管理するために院内の電波利用機器を管理する担当者同士が部門横断で連携し電波管理体制を構築することがトラブル解決には非常に有効であることを、医療機関の協力をいただき、研修会などで説明を継続して行うこととしております。今年度からスタートし、当局の大石通明無線通信部長を講師として2件の研修会を実施しました。

やわたメディカルセンター 医療安全・院内感染防止対策研修会

総務省北陸総合通信局（局長 山田 和晴）は、令和元年6月25日（火）、石川県小松市の特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンターが開催する「医療安全・院内感染防止対策研修会」において、約300名の参加職員の中、説明会を実施しました。

説明会に参加した職員の方からは、電波利用によるトラブル事例が思った以上に多く、日ごろの業務時より医療機器の位置や携帯電話使用にはさらに留意していこうと思った等の感想がありました。

※ハンズオン支援とは、個別に医療機関や専門学校、他のイベント（学会や医療関係ベンダー関連のイベント等）へ専門家を派遣し、実践的な学習支援や講義を実施するものです。今回のハンズオン支援は、北陸管内において、最初の取組となります。



講師の大石無線通信部長

石川県臨床衛生検査技師会 生涯教育セミナー



総務省北陸総合通信局（局長 三田 一博）は、令和元年7月6日（土）、石川県金沢市の北陸大学太陽が丘キャンパスにて石川県臨床衛生検査技師会が主催する「石臨技生涯教育セミナー（臨床検査総合部門）」において、約30名の参加者に向けて説明会を実施しました。

ハンズオン支援としては、北陸管内で2例目の取組となります。

開会にあたり主催者である（一社）石川県臨床衛生検査技師会 長原三輝雄会長（北陸大学医療保健学部医療技術学科講師）から、昨今の医療施設では電波を使った医療機器が増加している中、医療機器と他の無線機器との電波干渉などによるトラブル事例について、医師、看護師等の医療関係者のみならず、医療施設に勤務する他のスタッフにおいても電波の有効利用に関し知識や理解を深めていただき、適切な電波利用の環境を整える必要があると挨拶がありました。



主催者挨拶する
長原会長